グローバル探究Ⅱにおける平野メソッドの活用
～チーム編成と指導～

大阪教育大学附属高等学校平野校舎　　村上吉高　日比紀孝　瀧下史　福好功伸　松本裕行

概要
本校は平成27年～令和元年の５年間、SGH(Super Global Highschool)に指定され、「多面的に“いのち”を考えるグローバルリーダーの育成」をテーマとして課題研究をはじめ各事業を実践してきた。そして令和２年からの３年間は、新たにWWL(World Wide Learnig)に指定された。「全ての人々が等しく豊かに生きる社会づくりの実現に向けて主体的に力を発揮する人材の育成」を目指し、生徒は分野・領域にとらわれずグローバル課題解決に向けた研究活動を行っている。本報告では、これまでの２年間の取り組みを紹介し、改善点を提示する。

1.これまでの流れ

１年生「研究の手法を学ぶ」

１学期	導入　＜合意形成＞　＜多様性理解＞ ツール：NASAゲーム、ディクシット
２学期	課題の発見、QFT、４QS、チームビルディング 情報の収集・整理、調査方法 データにもとづく論理的思考、三角ロジック、 ブロックBASIC、フィールドワーク、ポスター作成法 課題研究発表会参観、琵琶湖合宿
３学期	プレゼンテーションの手法、ポスター発表、 ２年生との研究交流

・ツールはミニ探究で実践的に使用
・各ツールを必要に応じて使い分けられる土壌を育成
・タテのつながりでノウハウの継承

２年生「グローバル課題を探究する」

１学期	チームビルディング クリティカルシンキング実践 構想発表会
２学期	講演会 チームごとの調査活動 中間発表会 ポスター作成 課題研究発表会　さくらサイエンスプラン ポスター中間発表会　高校生国際フォーラム
３学期	高校生国際会議 研究の振り返り　探究甲子園

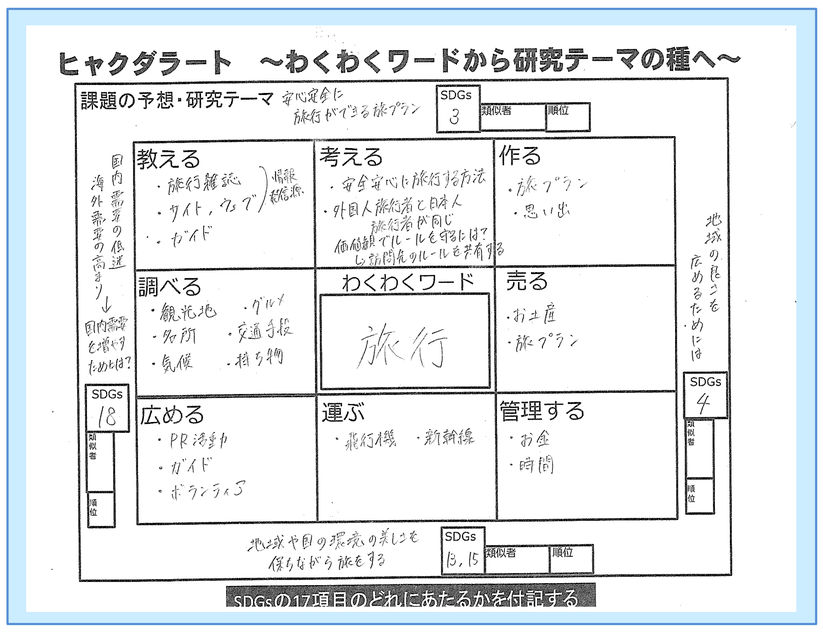
・チームごとにテーマを設定
・豊富な発表の場（計４回）
・校外での研究発表（表内の着色部参照）

2.ツール「ヒャクダラート」

「ヒャクダラート」
→マンダラートを援用したチーム作成ツール

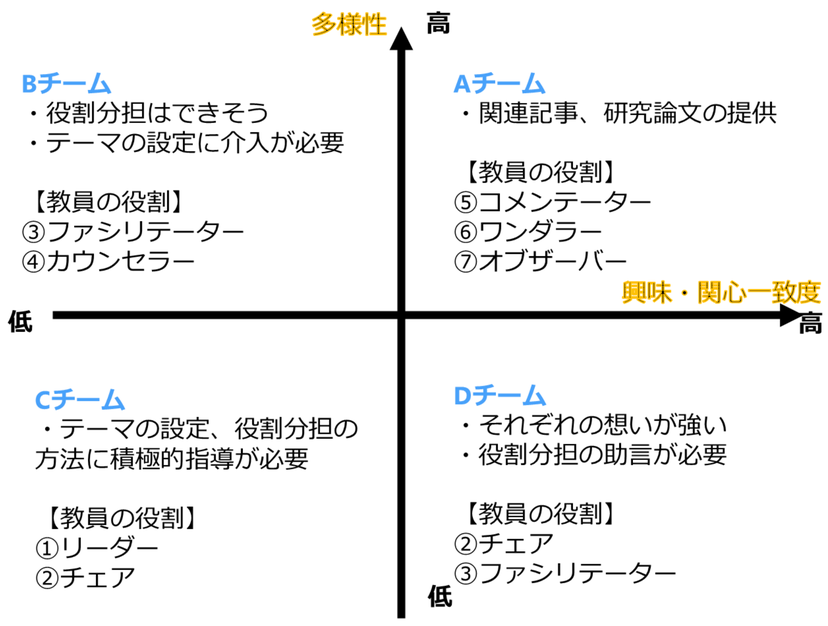
①わくわくワードの記入
→自分の興味関心に従い自由に記入
②わくわくワードに８つの動詞を合体
→インターネット等も活用
③②をいくつか組み合わせ、テーマの種を作成
→テーマの種の類似者どうしでチームビルディング

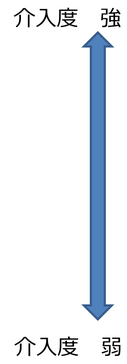
わくわくワードからグローバル課題へのブリッジツール



3.チームの分類と教員の役割

チームの分類
＜タテ軸＞
メンバーの多様性
＜ヨコ軸＞
メンバーの興味関心一致度
・２軸で４分類（A～D）
・Aチームは生徒主導
・Cチームは教員主導
（軌道に乗るまで）





役割	説明
①リーダー	教員や生徒がよく前提としている伝統的な役割
②チェア	内容ではなく見通しを整理する　①の変形版
③ファシリテーター	意見を提供するというよりも、傾聴し、引き出す役割
④カウンセラー	生徒個人、集団でのニーズに応じて…
⑤コメンテーター	横に座り、進め方に対して時々コメントする
⑥ワンダラー	生徒個人やグループの間を動き回る
⑦オブザーバー	生徒個人やグループの行動を観察する　コメントはしない
⑧アブセンサー	その場にいない

(Jaques & Salmon(2007)を参考に一部修正)

教員の役割
・生徒への介入具合により８段階
・チームの４分類に適した介入が必要

4.今後に向けての改善点

1　前提を知る機会の提供　→支援のスタンス、他国の状況など研究における前提知識・姿勢が必要
2　チームビルディング　→Aチームを増やし、Cチームを減らせるチームビルディング法の模索が必要
3　探究コミュニティの生成　→生徒の日常的探究姿勢を育成→教員の日常的探究姿勢を提示

5.参考文献

佐藤浩章(2021)『高校教員のための探究学習入門　問いから始める7つのステップ』ナカニシヤ出版
David Jaques, Gilly Salmon(2007)『Learning in Groups: A Handbook for Face-to-Face and Online Environments』ISBN9780203016459
市川力(2009)『探究する力―すべての小学生と先生のために』知の探究社
岡本尚也(2021)『課題研究メソッド　よりよい探究活動のために 2nd Edition』啓林館
大阪教育大学附属高等学校平野校舎(2019)『これでかわる！探究学習の指導　生徒の主体的な学びの実現をめざして』